

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲第 1182 号	氏名	西岡 宏
論文審査担当者	主査 宇佐美 真一 副査 栗田 浩・福島 菜奈恵		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>鼻骨骨折は発症頻度が高く、手術は比較的容易とされ、術後画像評価も行われないことが多い。一方、鼻骨骨折整復後の変形治癒症例を外来で目にすることもある。鼻骨骨折治療後の変形治癒が、どの程度の頻度で、どのような傾向で生じるか、またその結果に対して患者満足度はどうなのか、鼻骨形態を術前後に 3DCT 画像を用いて検討した。</p> <p>その結果、西岡は以下の成績を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 術前後に 3DCT を行えた 86 例中 17 例に変形治癒を認めた。2) 変形治癒を認めた斜鼻型 (Bilateral) 6 例全例に突出変形が残存していた。3) 混合型は整復は困難であり、突出変形が残りやすい傾向があった。4) 斜鼻型 (Unilateral)、鞍鼻型は良好に整復されていた。5) 変形治癒を認めなかった症例は術後患者満足度も高かったが、変形治癒を認めた一部の症例では患者満足度も低下した。 <p>これらの結果より、鼻骨骨折の整復術では、全身麻酔下に整復しても突出変形が残りやすいことが証明された。鼻骨突出側の治療は難しく、変形改善のため、視診、触診のみではなく、超音波検査などを併用する工夫が必要である。変形が残存した場合、患者満足度も低下したが、再手術の負担は大きいため、初回の手術で正確に整復することの重要性が示された。</p> <p>主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			